大逆事件、そして神戸

飛田雄一

（『むくげ通信』302号、2020.7.27）

本屋で『世界』を読んでいた。安重根「東洋平和論」が掲載されていたのだ（2009年10月号）。

その号をぱらぱらめくっていると、田中伸尚「大逆事件100年の道ゆき＜10＞」があった。「神戸・夢野村の女性」の見出しが目に入った。「夢野」は、私の生まれ育った神戸市兵庫区都由乃町の隣だ。小学校2、3年ごろまでそこにいた。もう夢野町となっていたが、そのあたりの野原でよく遊んでいた。

カナブン（ブイブイ）を大量に（100~200匹？）とった。2本の大きな蜜のでる木があり、その1本で2、30匹とる。次にもうひとつの木に登って2、30匹とる。それを何回かくりかえすのだ。食べたわけではない。2、3匹紐をつけて、飛ばして遊んだりしていた。心やさしい少年Hだった私は、あとでカナブンを放してやった（と思う？）。夢野町はそんなところだ。カナブンをネットで調べたら、「カナブンとコガネムシの違いとは？見分け方の６つのポイント！」が出てきた。コガネムシであったような気もするが、それはたぶん、カナブンだったと思う。

●

「夢野村の女性」は、大逆事件で死刑判決を受けその後無期懲役に減刑され、1931年5月1日、仮出獄した小松丑治の妻である。

田中伸尚のこの連載は2010年5月に単行本『大逆事件―死と生の群像』として岩波書店から出版された。2018年2月には、岩波現代文庫に収録された。

岩波現代文庫に小松丑治は、次のように書かれている

「1876年生まれ。死刑判決後無期。34歳。高知県出身、養鶏業。大阪で区役所など勤務後、神戸の海民病院事務員、1909初め、病院を退職し妻と養鶏業、秋水に傾倒するもアナキストにはならず、長崎監獄、1931.4,29仮出獄後、妻はると辛酸を嘗める。1945.10.4栄養失調死、69歳、墓、高知市小石木町の筆山霊園、妻はる1967.3死去、82歳。」

大逆事件の小松丑治と妻はるは、まさに「辛酸を嘗」めたことだろう。そのはるが通っていたのが神戸多聞教会、私の属している（通っているとは書きにくい）教会だ。今泉真幸（いまいずみまさき）牧師が、はるを支えたと書かれていた。今泉牧師は1909年から1942年まで同教会に在任した。

●

これらのことを「ゆうさんの自転車／オカリナ・ブログ」に書いた。むすびは、「「夢野」から偶然知ることになった「多聞教会」「小松はる」に、驚きながら、不信心もさらしつつ書き留めた次第である」。すると、今泉牧師のお孫さんからコメントがきた。

「2009-11-04 私は多聞教会の牧師だった今泉真幸の孫です。偶然祖父の名と懐かしい教会の名、さらに小松はるさんの名を発見してびっくりしました。彼女は私が小学生の頃、自分の飼っている鶏の卵を新聞紙で作った袋に入れて売りに来ていました。父母から彼女の連れ合いが長い間牢屋に入れられていて、出てきたときには言葉を失っていたと聞きました。はるさんは戦後京都の洛西教会の教会番（今ではどういう表現をするのでしょうか？）をしており、京都の私宅をよく訪問してくれました。老後は甥にあたる人のところへ行かれたと聞いております。」

私は、「コメントをありがとうございます。ブログの短文にこんな出会いがあるのですね。喜んでいます。ありがとうございました」とコメントした。

さらにそのお孫さんから以下のコメントが届いた。

「小松はるさんの情報が得られてうれしいです。夫小松丑治さんとともに葬られている高知市筆山のお墓を2010.12.7に訪ねてきました。戦争直後1945.10.4に丑治氏が亡くなったあとも今泉真幸牧師、そして田村真一牧師が大変よくして下さったようで、最後は明石愛老園で1967.3.25に亡くなられています。夢野村、今も夢野という地名でしょうか。どんな情報でもいいですから、小松はるさんのことなど教えて下さい。

飛田「はい、いまも「夢野町」としてあります。私の情報は、ブログ以外にはありません。なにかわかればまた書きます。」

お孫さん「たまたま京都に来てます。洛西教会を外からそっと見てきました。小松はるさんがここで晩年を過ごされたのだと思うと感慨深いものがありました。多聞教会や夢野町へも、いつか行ってみようと思っています。ありがとうございました。」

●

その後連絡が途絶えてしまったが、そのお孫さんにぜひお会いしたいと思っていた。この話をした多聞教会の会員の方もお会いしたいとのことだった。そのコメント欄に、以下のように書いた。

「2018-10-22 飛田です。「私は多聞教会の牧師だった今泉真幸の孫です」のかた、多聞教会の方が連絡をとりたいといわれています。このコメントをみられたら、飛田までメールをお願いします。hida(a)ksyc.jp (a)を@に変更してメールをお願いします。」

●

コメントは来なかった。神戸多聞教会のSさんが興味をもたれ、礼拝後の会で私はこの話をすることになった（2019年1月20日）。テーマは、「多聞教会の歴史のひとこま―大逆事件と神戸多聞教会―」。参加されていたYさんが、その後、お孫さんの連絡先を

調べてくださった。さっそく電話をして、私は教会員のSさんと高槻のご自宅を訪ねることになった（6月17日）。今泉牧師の写真などを見せてくださり、話も弾んだ。

Sさんは、教会の資料も調べてくださった。1931年5月31日付週報の個人消息に「小松はる姉の夫君は二十年振で帰家」と記されていた。

また小松はるさんについては、大逆事件の犠牲者を訪問した堺利彦が次のように書いている。（上山慧「堺利彦と荒畑寒村の神戸訪問をめぐって」（菅野須賀子研究会2017.1.19、レジメ）より）

「堺は、はると面会したときのことをのちに「しぶ六」の名前で「丸い顔」という随筆に書いており、売文社の機関紙『へちまの花』の第3号（大正３（1914）年）4月1日」に掲載している。その「丸い顔」は次のような書き出しからはじまっている。」

「「神戸、夢野」という処書が既に何か人に物を思わせる力を持って居る。「小松春子」という名が又如何にも柔しい、しほらしい感じを人に与える。／神戸の町はづれから六七町、あるいは十町ばかりもあつたらうか、夢野村で小松という庭鶏を飼ふところと、あちこち尋ねまはってヤツトのとこ行きあたつた。時は四月の末、ポカポカと暖かい、少し歩けば直ぐに汗という日であつた。」

●

雑誌『世界』から始まったこのことを、『現場を歩く　現場を綴る―日本・コリア・キリスト教―』（かんよう出版 2016.6）にも書いた。すると、その記事を読んだ井上力さん（元神戸市会議員）から連絡が入った。「大逆事件と神戸」をテーマに勉強会を始めるという。伺うと、大逆事件の全国連絡会があり、隔年で全国サミットを開いている。その第5回サミットを2020年10月に神戸で開くことになったという。私もその実行委員会のメンバーになった。サミットは、①高知（2011年、幸徳秋水出身地）、②福岡（2014年、堺利彦の生誕地）、③大阪（2016年、管野スガゆかりの地）、④和歌山新宮（2018年）と開かれていた。コロナ禍のため、神戸サミットは中止となったが、「大逆事件を明らかにする兵庫の会」は、10月31日に結成されることになっている。午後2時から、会場は学生センター、講演は、山泉進。（幻の神戸サミットは、2020.10.17、兵庫県中央労働センター、講演予定は、山泉進、上山慧）

幸徳事件の無期囚出獄
廿年振に妻と再會
孤獨と貞操を守り通した半生
流す涙も忘れる歡び
赤ん坊を盗み出し
山林に埋める
1931.5.5 大阪朝日新聞

先に書いたように1931年4月29日、小松丑治は釈放されたが、そのとき小松を取材した記事が1931年5月5日大阪朝日新聞に掲載されている。田中伸尚の本に紹介されているこの記事をとりよせた。田中によると大逆事件で釈放された人に関する記事としては異例の取り扱いで好意的に書かれているとのことだ。

小松丑治ともに神戸市内で働き逮捕され、死刑判決を受けのちに無期に減刑されたのが、岡林寅松だ。デジタル版 日本人名大辞典には次のようにある。

「1876－1948　明治時代の社会運動家／幸徳秋水らの非戦論に共鳴し,小松丑治らと神戸平民倶楽部(クラブ)の結成にくわわる。内山愚童との雑談で爆裂弾の製法にふれたことを口実にされて,明治43年（1910）大逆事件に連座し,44年（1911）死刑判決。特赦で無期懲役となり,昭和6年(1931)仮出獄。昭和23(1948)年9月1日死去。73歳。高知県出身」

●

小松墓地、岡林墓地、小松墓地の前で

大逆事件念が身近に感じられるようになった私は、今年1月23~24日、高知を訪ねた。初めて幸徳秋水の墓前祭に参加し、神戸ゆかりの小松丑治、岡林寅松の墓地にも参ったのである。岡林の墓守をされている岡林の妹の孫・徳弘達雄さんにもお目にかかることができた。

●

幸徳秋水が安重根に漢詩を送っている。秋水は漢文をよく作っており、「最死刑宣告之日」に作った「区区成敗・・」の詩は有名である。

最後に「一松書院のブログ」にある、安重根の絵はがきに秋水が書いた漢詩を紹介する。もとは『新韓民報』1910.3.30に掲載されたものだ。

「舍生取義（生を捨て義を取り）／殺身成仁（身を殺して仁をなす）／安君一挙（安君の一挙）／天地皆振（天地みな震う）／秋水題」

幸徳秋水の「区区成敗」の碑の前で